

**テレビニュース vs 印刷物ニュース**  
**- どちらが思い出しやすいか -**

「テレビニュース」と「新聞」は、世の中に起こる出来事を知るために、日常最も頻繁に利用されるメディアである。この2つのメディアのどちらがニュース内容を思い出しやすいだろうか。そして、視聴者が後で思い出せるように効果的に情報を伝えるにはどうしたらよいのだろうか。

これらの問題について、大人と子どもを対象にしてテレビニュースと印刷物ニュースの視聴の比較を行った、オランダの研究<sup>1)</sup>を紹介する。

新聞に代表される印刷物ニュースとテレビニュースで後にニュース内容を思い出しやすいのはどちらか。これまでの研究では、子どもと大人では結果に矛盾が見られている。

表1 内容を思い出しやすいのはどちら？

	メディア
子ども(小学校高学年)	テレビニュース > 印刷物ニュース
大人	テレビニュース < 印刷物ニュース

子どもと大人で、表1のように逆の結果がみられることについて、「読解熟達説」「意味重複説」の2つの対立する仮説が考えられる。

**「読解熟達説」とは？**

印刷物ニュースは、テレビに比べて視聴者が情報を取り入れる過程をコントロールできるという利点がある。たとえば、読者は新聞記事を自分のペースで読んだり、部分を繰り返して読んだり、細かなところをチェックしたりすることができる。このように、印刷物ニュースは記憶に適したメディアである。しかし、子どもは読解能力が大人ほど発達していないため、印刷物のもたらす情報のコントロールの利点を生かすことができない。このため、子どもはテレビニュースのほうが思い出しやすく、大人は印刷物ニュースが思い出しやすいのではないか、というものである。

**「意味重複説」とは？**

これまで行われてきた子どもを対象に行った研究では、子どもは子ども向けに製作・放送されたテレビニュースを観ている。子ども向けのテレビニュースでは、言葉によるコメントと同時にその内容を伴った画像を

多く使っており、結果としてコメントと画像が非常に一致することになる。しかし、大人を対象とした研究では、大人が普段見るテレビニュースを利用しており、このようなテレビニュースはコメントと画像が伝えることは実はあまり一致していない。大人のテレビニュースで伝える画像は、例えば「政治家がリムジンに乗り込む様子」のように、いわゆる「基本的なニュース画像」がほとんどなのである。このようにコメントと画像が一致していないテレビニュースでは、後で内容を思い出そうとするとこのコメントと画像の不一致がうまく統合できないため、なかなか思い出すことができなくなる。

このように、子どもを対象にしたテレビニュースは、コメントによる言語情報と画像や絵による視覚情報が密接な関係にあるが、大人を対象にしたものは言語情報と画像情報がずれており、テレビの利点を十分に生かしていない。実験材料であるテレビニュースの性質が子どもと大人で異なるため、子どもはテレビニュースのほうが思い出しやすく、大人は印刷物ニュースが思い出しやすいのではないか、というものである。

**「読解熟達説」vs「意味重複説」の検討**

オランダの研究者は、この「読解熟達説」「意味重複説」のどちらが正しいかを実験によって検討した。この研究のユニークな点は、子どもに子ども向けニュースだけでなく大人向けニュースを、大人に大人向けニュースだけでなく子ども向けニュースも視聴させて比べているところである。

**実験内容**

**参加者** オランダの標準的な読解力をもった96人の子ども(小学校の5,6年生;平均年齢11歳0ヶ月)、96人の青年(大学1,2年生;平均年齢21歳9ヶ月)が、それぞれ子どもの参加者、大人の参加者として実験に参加した。

これらの子どもと大人の参加者を、それぞれ同数ずつ、大人向けのテレビニュースを見る群、大人向けの印刷物ニュースを読む群、子供向けのテレビニュースを観る群、子ども向けの印刷物ニュースを読む群、の4群にランダムに分けた。

**実験材料** テレビニュースと印刷物ニュースのそれぞれについて、テーマの同じ大人向けのもものと子ども

向けのものを用意した。

テレビニュースは、過去に子ども向け、大人向けとして実際に放送されたニュースから、同じテーマの5つのトピックを用いた。大人向けニュースは、毎晩放映される「8時ニュース」、子供向けニュースは10～12歳が理解できるようにオランダで製作された「子どもニュース」であった。取り上げたトピックは、「海軍が1940年に失踪した潜水艦を発見」「オーストラリアで激しい森林火災により被害が発生した」「政府が新国立公園を自然保護区域に指定した」などであった。

印刷物ニュースは、実験者が作成したもので、テレビニュースをそのまま書き下して、新聞の形式を取っているものであった。

**手続き** 参加者は集団でニュースを視聴した。その後、参加者はニュース内容を手がかりなしに思い出しで書く、というテストを受けた。テスト問題は、ニュースで報じられていた出来事やその場所、原因、結果などを問う57問であった。

これらのテスト問題を「言語情報のみを手がかりに答える問題」と「言語と画像が一致した情報を手がかりに答える問題」に分けてみると、子ども向けテレビニュースのうち問題を解く手がかりが「言語情報と画像情報」である問題数は、大人向けテレビニュースの4倍の20%であり、子ども向けニュースは大人向けニュースに比べて、視覚情報と言語情報が非常に一致していることが確認できた。

## 結 果

テレビと印刷物を比べた結果は表2のとおりであった。子どもは、子ども向けニュースについては、テレビのほうが印刷物より思い出しやすかった。大人は、大人向けニュースについては、印刷物のほうがテレビニュースより思い出しやすかった。この結果は、これまで行われてきた研究の結果と一致するものであった。

さらに、言語情報と視覚情報が一致していることが、ニュース内容を思い出すことに効果を与えているかどうかを確かめるために、回答の手がかりとなる情報ごとに分けた問題群についてテレビと印刷物ニュースで思い出した割合を比べた。その結果、図1のように、大人は、大人向けニュースについては、言語情報と視覚情報が一致したときには、テレビニュースの内容を印刷物ニュースと同じくらい思い出した。

## 考 察

以上の研究の結果をまとめると、大人は言語情報と視覚情報が一致していれば、テレビニュースであっても印刷物と同じくらいすという結果が得られた。すなわち、「意味重複説」が正しく、「読解熟達説」、つまり大人は読解力が発達しているためテレビニュースよりも印刷物ニュースを思い出しやすい、というものではなかった。

この他、2つのことが考えられた。一つ目は、テレビニュースに多くの視聴覚情報を用いれば、印刷物と同じ内容を記すよりも思い出しやすくなるということである。他のメディア研究でも、テレビニュースで視聴覚情報が多かったときは、視聴覚情報が少なかったときよりも、内容を思い出しやすいという結果が出ている。

2つ目は、大人向けのテレビニュースをよりよくするには、子ども向けニュースを参考にして画像や絵によるメッセージと言葉によるメッセージを一致させることで、視聴者にとってより思い出すのに効果的なのではないかということである。

## まとめ

ここで紹介した研究では、ニュースの提示には視覚情報と言語情報が一致していることが望ましいことが確かめられた。しかし、視覚情報と言語情報のもたらずメッセージを一致させて伝えることは、ニュースだけに限ることではない。授業や研究発表のプレゼンテーションにおいても、話すだけではなく、絵や画像といった視覚情報を用いて説明することは多い。その際、絵や画像を始めとした情報を多く取り入れ、話す内容となるべく一致させて示すことで、聞き手はより理解できるようになるだろう。

## 引用文献

<sup>1)</sup>Walma van der Molen, J. H., & van der Voot, T. H. A. 2000 Children's and adults' recall of television and print news in children's and adult news formats Communication Research, 27 (2), 132-160.

表2 ニュース内容をどれだけ思い出せたか

		子供向け		大人向け	
子ども	テレビニュース >	印刷物ニュース	テレビニュース	印刷物ニュース	
大人	テレビニュース >	印刷物ニュース	テレビニュース <	印刷物ニュース	

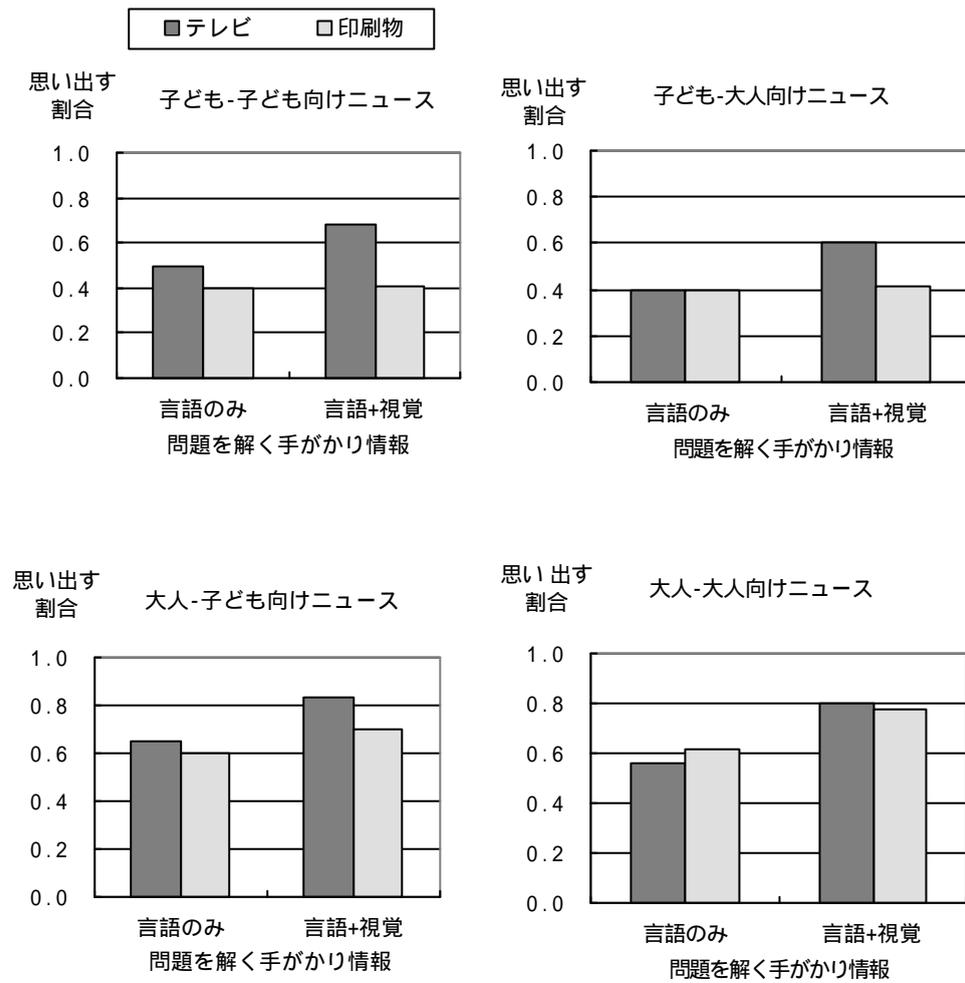


図1 ニュース内容を思い出した割合